

# 社会資本総合整備計画 事後評価書

平成29年3月10日

計画の名称	神奈川県内における総合的な浸水対策の推進		
計画の期間	平成22年度 ～ 平成26年度 (5年間)	交付対象	神奈川県
計画の目標			

都市化が進展し、河川はらん域における人口・資産の集積化が進む神奈川県において、近年、局所的、突発的に短時間で多量の雨が降る、いわゆるゲリラ豪雨が頻発し、また都市化の進展に伴う浸水被害リスクも増大していることから、ハード対策とソフト対策が一体となった総合的な浸水対策を実施し、環境と共生しつつ、誰もが安心して暮らせ、生き生きと活動できる自然災害に強い県土の形成を目指す。

計画の成果目標 (定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川の氾濫や高潮により、浸水被害を受ける恐れのある区域の面積を、855ha (H26) 減少させる。</li> <li>長寿命化計画に基づき延命化を図る河川管理施設数を0箇所(H22)から1箇所(H26)とする。</li> <li>老朽化したダム放流設備の改良を行い、機能の継続が可能なダム数を0箇所 (H22) か2箇所 (H26) とする。</li> <li>県民等へ河川水位情報を提供する河川の割合を74% (H22) から87% (H26) に向上させる。</li> </ul>
-----------------	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H26末)	
河川の氾濫や高潮により、浸水被害を受ける恐れのある区域の面積を、855ha (16,904ha→16,049ha) 減少させる。 浸水被害区域減少面積 (ha) = Σ (各河川の河川整備の実施に伴う浸水被害区域の減少面積)	0 ha (16,904 ha)	-	855 ha (16,049 ha)	
長寿命化計画に基づき延命化を図る河川管理施設数 (箇所) を増やす。 河川管理施設数 = 策定された長寿命化計画に基づき延命化が図られる河川管理施設数	0 箇所	-	1 箇所	
老朽化したダム放流設備の改良を行い、機能の継続が可能なダム数を増やす。 機能の継続が可能なダム数 = 老朽化したダム放流設備の改良を行うダム数	0 箇所	-	2 箇所	
県が所管する全ての水防警報河川に対する河川水位計が設置済みの河川の割合 (%) 河川水位計設置率 (%) = 河川水位計設置済河川数 / 県所管の全ての水防警報河川数 (107河川)	74 %	-	87 %	

全体事業費	合計 (A + B + C)	29,611 百万円	A	29,611 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A + B + C)	0.0%
-------	-------------------	---------------	---	---------------	---	----------	---	----------	-------------------------------	------

## 事後評価

### ○事後評価 (中間評価) の実施体制、実施時期

事後評価 (中間評価) の実施体制	事後評価の実施時期
	平成28年度
	公表の方法
神奈川県内部で事後評価を実施	県のホームページに掲載

### 1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A1 基幹事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	事業及び施設種別	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		
A1-1	河川	一般	神奈川県	直接	-	広域河川1	-	相模川広域河川改修事業	L=21.6km、築堤、護岸、掘削	海老名市、座間市						1,927	
A1-2	河川	一般	神奈川県	直接	-	広域河川1	-	串川広域河川改修事業	L=1.57km、護岸	相模原市						43	
A1-3	河川	一般	神奈川県	直接	-	広域河川1	-	永池川広域河川改修事業	L=3.52km、護岸、掘削	海老名市			■	■		733	H24:地域自主戦略交付金
A1-4	河川	一般	神奈川県	直接	-	広域河川1	-	小出川広域河川改修事業	L=10.92km、築堤、護岸、掘削	茅ヶ崎市、寒川町		■	■	■		1,935	H23-H24:地域自主戦略交付金
A1-5	河川	一般	神奈川県	直接	-	広域河川2	-	要定川広域河川改修事業	L=0.98km、護岸、掘削	開成町						32	
A1-6	河川	一般	神奈川県	直接	-	広域河川2	-	酒匂川広域河川改修事業	L=14.8km、築堤、護岸、掘削	小田原市、松田町、山北町						513	
A1-7	河川	一般	神奈川県	直接	-	広域河川2	-	帷子川広域河川改修事業	L=5.0km、護岸、掘削	横浜市						728	
A1-8	河川	一般	神奈川県	直接	-	広域河川2	-	金目川広域河川改修事業	L=8.1km、護岸、掘削	平塚市、大磯町						557	
A1-9	河川	一般	神奈川県	直接	-	広域河川2	-	早川広域河川改修事業	L=1.68km、護岸	小田原市、箱根町						202	
A1-10	河川	一般	神奈川県	直接	-	地震高潮2	-	東京地区地震・高潮対策河川事業 (帷子川)	L=4.78km、護岸、掘削	横浜市						1,139	
A1-11	河川	一般	神奈川県	直接	-	総治1	-	鶴見川 (矢上川) 総合治水対策特定河川事業	L=4.0km、調節池	川崎市						1,992	
A1-12	河川	一般	神奈川県	直接	-	総治1	-	恩田川総合治水対策特定河川事業	L=5.0km、掘削、遊水地	横浜市						989	
A1-13	河川	一般	神奈川県	直接	-	総治1	-	目久尻川総合治水対策特定河川事業	L=2.8km、築堤	藤沢市、綾瀬市、寒川町						401	
A1-14	河川	一般	神奈川県	直接	-	総治2	-	境川総合治水対策特定河川事業	L=0.75km、遊水地	横浜市、藤沢市						3,894	



**2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況**

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	ハード対策とソフト対策が一体となった総合的な浸水対策を実施し、概ね目標を達成しており、一定の治水安全度を向上でき、環境と共生しつつ、誰もが安心して暮らせ、生き生きと活動できる自然災害に強い県土の形成に寄与できた。
--------------------------------	--

II 定量的指標の達成状況	指標①（浸水被害区域減少面積）	最終目標値	855 ha	目標値と実績値に差が出た要因	用地取得が難航したこと等により、事業進捗が遅れが出たために、目標を達成することはできなかったが、目標の約7割は達成しており、一定の治水安全度は向上できた。
		最終実績値	566 ha		
	指標②（長寿命化計画に基づき延命化を図る河川管理施設数）	最終目標値	1 箇所	目標値と実績値に差が出た要因	目標を達成している。
		最終実績値	1 箇所		
	指標③（機能の継続が可能なダム数）	最終目標値	2 箇所	目標値と実績値に差が出た要因	目標を達成している。
		最終実績値	2 箇所		
	指標④（河川水位計設置率）	最終目標値	87 %	目標値と実績値に差が出た要因	目標を達成している。
		最終実績値	87 %		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	完成した遊水地等の施設では、浸水被害を軽減するだけでなく、親水空間の利用など、着実にストック効果を発揮している。
--	--

**3. 特記事項（今後の方針等）**

平成27年度以降も新たな社会資本総合整備計画において、引き続き事業を推進し、自然災害に強い県土の形成を目指す。

(参考図面) 水の安全・安心基盤整備

